

## 活動報告

団体名	いわて連携復興センター
活動名	INDS の強みを生かした岩手県内・東北域の災害復旧支援活動
活動期間	2022/08/05～2022/08/31
活動の成果	<p>■対象者や地域の変化</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域住民同士の繋がり、助け合い精神が残っている地域であり、民生委員などの関わりも深い地域であったが、それゆえ、同じように被災したご近所に頼めない・頼れない住民が多かった。また、自分のことよりも他の家のことを気にされる方も多かったこともあり、被災しており、住民らで対応が難しいであろう家からもニーズが上がりづらかった。地域の方がボランティア受入れ慣れしておらず、知らない人を家にあげることに抵抗がある方が多かった（受援力が低い）。ボランティア活動をしている姿を地域の方々に、ある意味意図的に見てもらうことで、信用していただくことができニーズ収集につながったケースも多かった。</li> <li>・今回の災害を経験したことで、社協や役場の方が災害対応についての意識が大きく変化したように思う。地域防災計画等の見直しも検討していくとのことだった。</li> </ul> <p>■得られた成果</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・オンラインツールを使用し、紙を使わない効果的かつ効率的な災ボラ運営ができたこと。必要に応じて県内に展開していきたい。</li> <li>・現場コーディネートも行うことで、県内で活動するボランティアの人材育成も行うことができた。今後も県内災害の際は活躍してくれる人材だと思う。</li> <li>・五城目社協や秋田県社協とのつながりもでき、INDS が目指している東北域内でのネットワーク構築につながった。</li> <li>・被災の実態把握、ニーズ収集の仕方、見立てなどを地元関係者（社協、行政）とともに進めたことで、地域住民へ災害ボランティアセンターの認知、浸水家屋の復旧作業の必要性、ボランティア・外部支援団体の受け入れなど、地域に災害時の活動視点・ノウハウが残るよう地域に貢献できた。</li> <li>・官民連携体制による支援（現調、関係者からの聞き取り、声掛け、復旧作業）等により、自分から SOS を出しづらい被災者一人一人へ寄り添い支援を届けることができた。</li> </ul> <p>■前の目標と実際に行ってみての結果</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・被災はしているものの、地域内の方々で対応が終わった家が多かった。それ自体は非常によいことだが、専門的な知識がそこにプラスされればもっといい結果につながったように思う。</li> </ul> <p>■課題</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・関わっていない被災家屋の今後の状況。適切な処置がされていないお宅もあるが、ボランティア不要と言われてしまえばこちらとしては何もできない。水害対応の冊子の配布は行ったが、水害にあった家はということになのかということを経験からもっと伝えていく必要がある。</li> </ul>

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域に災害対応ノウハウのある方がいない。研修の実施などを促し、ノウハウを提供していけたらと思う。</li> <li>・災害救助法が適用されていないことで、生活再建のハードルが上がっている。住民の今後の生活をどのようにしていきたいのかを把握したうえでどこまでの再建を目指すのかなどの相談対応をする必要がある。</li> </ul>
<p>寄付者へのメッセージ</p>	<p>皆様からの温かいご支援に感謝いたします。</p> <p>行政や社協、制度では行き届かない、NPO だからこそ出来る被災者に寄り添ったきめ細やかな活動など、被災地の復興の為に大切にに使わせていただきました。</p> <p>今後もR4年8月豪雨による被災地へ、息の長い支援をよろしくお願いいたします。</p>

(活動のようす)

